

平成30年度
海田町教育委員会点検・評価報告書
(平成29年度対象)

海田町教育委員会

目 次

I	教育委員会の活動状況	1
II	教育委員会の点検・評価	5
	【学校教育課】	
	確かな学力の育成	6
	21世紀型能力育成事業	8
	グローバル人材育成事業	10
	豊かな心の育成	12
	心の元気を育てる地域支援事業	14
	青少年サポート事業	15
	競技力向上対策事業	16
	こども議会運営事業	17
	児童生徒の安心・安全の確保と質の高い教育環境の整備	18
	小中学校安全管理事業	19
	小中学校耐震補強事業	20
	ICT環境整備事業	21
	【生涯学習課】	
	生涯学習の推進	22
	公民館管理運営事業	23
	公民館主催講座事業	24
	公民館整備事業	26
	図書館管理運営事業	27
	蔵書整備事業	29
	地域文化の継承と創造	30
	文化財保護事業	31
	芸術文化振興事業	33
	青少年の健全育成	34
	放課後子供教室事業	35
	青少年育成事業	36
	スポーツのまち・海田づくり	37
	スポーツ振興事業	38
	織田幹雄顕彰事業	39
III	総括	40
IV	評価委員の点検・評価	41

I 教育委員会の活動状況

1 教育委員会委員

本町教育委員会は、町長が町議会の同意を得て任命した教育長及び4名の教育委員により構成されています。平成30年3月31日現在の教育委員は、次のとおりです。

教育委員の区分	性別	内 訳
教育長	男	元教育関係者
教育長職務代理者	男	教育関係者
委員	女	元行政関係者
委員	男	保護者
委員	女	元教育関係者

2 教育委員会会議の開催状況

定例会 12回、 臨時会 3回

3 教育委員会会議での審議状況

議題件数 63件

(内訳) 議案 23件、 報告協議 40件

開催日	議案・報告等	件 名
4月14日	議案第8号	海田町社会教育委員の委嘱について
	議案第9号	海田町公民館運営審議会委員の委嘱について
	議案第10号	海田町スポーツ推進委員の委嘱について
	報告協議第13号	平成29年度夢未来ビジョンについて
	報告協議第14号	平成29年4月臨時議会について
	報告協議第15号	各行事の開催及び結果等について
5月25日	議案第11号	平成29年6月定例議会補正予算案について
	報告協議第16号	新海田公民館整備について
	報告協議第17号	平成28年度小中学校卒業生の進路状況について
	報告協議第18号	海田町適応指導教室設置要綱の制定について
	報告協議第19号	学校教育課年間スケジュールについて
	報告協議第20号	生涯学習課年間スケジュールについて
	報告協議第21号	各行事の開催及び結果等について
6月16日	報告協議第22号	平成29年度学校経営計画について
	議案第12号	臨時代理の承認について
	報告協議第23号	平成29年6月議会について

	報告協議第 24 号	海田町学校教育意識調査について
	報告協議第 25 号	平成 29 年度海田町教育委員会点検・評価について
	報告協議第 26 号	各行事の開催及び結果等について
7 月 14 日	議案第 13 号	平成 30 年度使用小中学校教科用図書のうち、学校教育法附則第 9 条の規定による図書に係る採択基本方針について
	報告協議第 27 号	平成 30 年度広島県「基礎・基本」定着状況調査の結果について
	報告協議第 28 号	各行事の開催及び結果等について
7 月 26 日	議案第 14 号	県費負担教職員の人事異動について
8 月 21 日	議案第 15 号	平成 30 年度使用小学校教科用図書の採択について
	議案第 16 号	平成 30 年度使用特別支援学級用教科用図書の採択について
	議案第 17 号	平成 29 年 9 月定例議会補正予算案について
	報告協議第 29 号	学力調査の結果について
	報告協議第 30 号	各行事の開催及び結果等について
8 月 28 日	議案第 18 号	平成 30 年度使用特別支援学級用教科用図書の採択について
9 月 25 日	議案第 19 号	平成 29 年度海田町教育委員会点検・評価（平成 28 年度対象）について
	報告協議第 31 号	平成 29 年 9 月議会について
	報告協議第 32 号	海田町学校教育意識調査の結果について
	報告協議第 33 号	学力調査の結果について
	報告協議第 34 号	各行事の開催及び結果等について
10 月 23 日	報告協議第 35 号	学校へ行こう週間について
	報告協議第 36 号	新海田公民館の整備について
	報告協議第 37 号	各行事の開催及び結果等について
11 月 10 日	議案第 20 号	平成 29 年 12 月定例議会補正予算案について
	報告協議第 38 号	各行事の開催及び結果等について
12 月 15 日	議案第 21 号	臨時代理の承認について
	議案第 22 号	海田町文化財審議会委員の委嘱について
	報告協議第 39 号	平成 29 年 12 月議会について
	報告協議第 40 号	各行事の開催及び結果等について
1 月 12 日	報告協議第 1 号	海田町就学援助費支給要綱の全部改正について
	報告協議第 2 号	海田公民館の整備について
	報告協議第 3 号	各行事の開催及び結果等について

2月23日	議案第1号	平成30年3月定例議会補正予算案について
	議案第2号	平成30年度当初予算案について
	報告協議第4号	各行事の開催及び結果等について
3月12日	議案第3号	県費負担教職員の人事異動について
3月22日	議案第4号	町職員の人事異動について
	議案第5号	平成30年度使用特別支援学級用教科用図書採択変更について
	議案第6号	海田町公民館運営審議会委員の委嘱について
	議案第7号	海田町社会教育委員の委嘱について
	議案第8号	海田町スポーツ推進委員の委嘱について
	報告協議第5号	教育長の任命の同意について
	報告協議第6号	教育委員会委員の任命の同意について
	報告協議第7号	教育長の職務代理者の指名について
	報告協議第8号	平成30年3月定例議会について
	報告協議第9号	平成30年度夢未来ビジョンについて
	報告協議第10号	特別支援学級等の状況について
	報告協議第11号	通級指導教室の状況について
	報告協議第12号	各行事の開催及び結果等について

4 その他の主な活動

(1) 会議等への出席

日時	名称	出席者	場所
4月24日	安芸郡4町教育長会議	教育長	府中町
4月12日 1月23日	広島県市町教育長会議	教育長	広島市
5月11日 5月12日	全国町村教育長会定期総会	教育長	東京都
5月29日 7月26日 12月20日	西部教育事務所管内 教育長・部課長会議	教育長	呉市
5月19日	広島県町教育長会定期総会	教育長	広島市
5月30日	広島県市町教育委員会連合会定期総会	教育長	広島市
7月10日 11月2日 2月21日	広島県女性教育委員研修会	委員(2名)	広島市 東広島市 広島市

7月20日	中国地区市町村教育委員会連合会研修大会	教育長 委員（2名）	東広島市
8月17日 8月18日	中国五県町村教育長研究大会	教育長	大崎上島町
10月20日	広島県町教育長会研修大会	教育長	安芸太田町
10月24日	広島県市町教育委員会教育委員研修会	教育長 委員（3名）	広島市
1月12日	安芸郡教育長・小学校長合同研修会	教育長	広島市
1月12日	総合教育会議	教育長 委員（4名）	海田町役場

(2) 主な式典・行事等

日時	内 容	会 場
4月3日	教職員辞令交付式	ひまわりプラザ
4月6日	入学式	各小学校
4月7日	入学式	各中学校
1月7日	成人祭	海田公民館
3月10日	卒業式	各中学校
3月20日	卒業式	各小学校
3月30日	退職者辞令交付式	海田町役場

(3) 公開研究会等

日時	内 容	会 場
5月24日	町主催研修 ・「『深い学び』の実現に向けた授業の在り方について」	海田中学校
8月3日	町主催研修 ・「特別支援教育における授業改善と指導の充実」	ひまわりプラザ
8月24日	グローバル・キャンプ	ひまわりプラザ
10月17日	町主催研修 ・「主体的・協働的に学び、自分の考えを深める児童生徒の育成」	海田東小学校
11月30日	町主催研修 ・「新学習指導要領を見据えた小学校外国語活動の指導の在り方」	海田小学校
1月24日	町主催研修 ・「主体的に学びを深める児童生徒の育成」	海田小学校

II 教育委員会の点検・評価

1 目的

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和 31 年法律第 162 号）第 26 条の規定により、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について、学識経験者の知見を活用した自己点検及び評価を行い、その結果を議会に報告するとともに住民に公表することとされている。

この点検・評価は、効果的な教育行政の推進に資するとともに、町民に対する説明責任を果たすことを目的としている。

2 対象年度

平成 29 年度

3 評価の実施時期

平成 30 年 5 月～ 内部評価

平成 30 年 8 月 外部評価 評価者：広島大学大学院教育学研究科
教授 曾余田 浩史

4 評価対象及び評価基準

本町では、平成 23 年度から第 4 次総合計画に基づき施策を展開している。それに基づき教育委員会が実施した事業のうち重点施策と位置付けた事業を評価対象とした。

評価基準

A…十分に達成している（達成率 80%以上）

B…おおむね達成しているが、改善の余地がある（達成率 50%以上～80%未満）

C…事業内容の見直し、改善が必要（達成率 50%未満）

5 各施策・事業の評価

学校教育課（P6～P21）

確かな学力の育成

豊かな心の育成

児童生徒の安心・安全の確保と質の高い教育環境の整備

生涯学習課（P22～P39）

生涯学習の推進

地域文化の継承と創造

青少年の健全育成

スポーツのまち・海田づくり

施策

確かな学力の育成

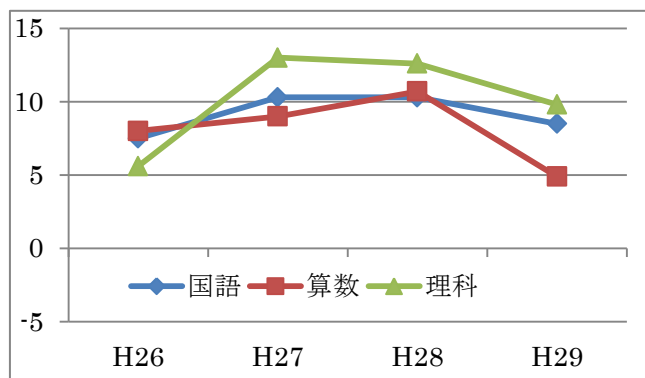
取組と成果

平成 29 年度は、広島県が策定した「広島版『学びの変革』アクション・プラン」に即して、児童生徒の主体的な学びによる確かな学力の定着を目指し、次のような取組を行った。

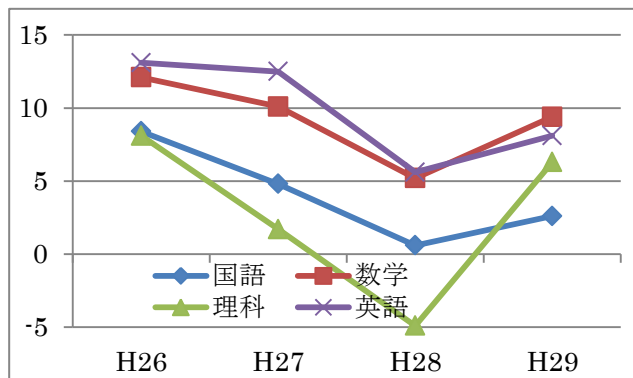
- (1) 教師がより質の高い授業ができるよう研修を実施し、指導力の向上を図った。
- (2) 外国語活動や外国語科の充実により、国際化社会へ対応力の向上を図った。

広島県「基礎・基本」定着状況調査通過率の広島県平均との比較

	教科	H26 年度	H27 年度	H28 年度	H29 年度
小学校	国語	+7.5	+10.3	+10.3	+8.5
	算数	+8.0	+9.0	+10.7	+4.9
	理科	+5.6	+13.0	+12.6	+9.8
中学校	国語	+8.4	+4.8	+0.6	+2.6
	数学	+12.1	+10.1	+5.2	+9.4
	理科	+8.1	+1.7	-4.9	+6.3
	英語	+13.1	+12.5	+5.6	+8.1



広島県「基礎・基本」定着状況調査通過率の
広島県平均との比較
(小学校)



広島県「基礎・基本」定着状況調査通過率の
広島県平均との比較
(中学校)

重点的に取り組んだ事業			
事業名	内容	評価	頁
21世紀型能力育成事業	各教科等の特質に応じた深い学びの実現に向け、「課題発見・解決学習」の単元を位置づけた年間指導計画の作成や、各教科における単元等の内容や時間のまとまりを見通した指導を行う。	A	8・9
グローバル人材育成事業	外国語活動や外国語科英語を中心に、児童生徒の語学力の向上、コミュニケーション能力、主体性・積極性、異文化理解の精神等を育成する。	B	10・11

評価

平成26年12月に広島県が策定した「広島版『学びの変革』アクション・プラン」を受けて、平成27年度から、児童生徒の主体的な学びによる確かな学力の定着を目指し授業改善を進めてきた。最終年度にあたる平成29年度は、平成28年度に引き続き、各学校で実践した「課題発見・解決学習」の単元計画や学習指導案を学校及び町ホームページに公開し、それぞれの学校での研修等で活用した。町内外へ発信するとともに、町全体で共有することにより、研究の質を高め、日々の授業改善につなげることができた。広島県「基礎・基本」定着状況調査の結果は、全ての教科で県平均を上回ることができ、一定の成果を上げることができた。今後は基礎・基本の確実な定着に加え、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、授業改善に向けた取組を更に活性化する。

また、平成29年度は、平成29年3月31日に告示された小学校・中学校の学習指導要領の周知・徹底の期間とし、校長会や教頭会等、様々な研修の場を活用し、各小中学校に対して指導助言を行ってきた。移行期間の平成30年度も引き続き、平成32年度（小学校）、平成33年度（中学校）の全面実施に向けて、指導・助言を行っていく。

事業の目的
児童生徒の学力の向上を図ると共に、教師の指導力や授業の質の向上を図る。
事業内容
<ul style="list-style-type: none"> ・各校 2 名の推進担当教員が中心となり、各教科及び総合的な学習の時間等において、「課題発見・解決学習」の指導内容・方法等に係る研究開発を行い、その成果を検証、普及することにより、児童生徒の学力の向上を図る。 ・小中連携による授業観察・実践交流等を通じた授業改善を行う。 ・「課題発見・解決学習」の単元を位置づけた年間指導計画の作成を行う。 ・各教科における単元や題材等の内容や時間のまとまりを見通した指導を行う。 ・総合的な学習の時間の単元開発を行い、学校間での共有を図る。 ・管理職・教育委員会職員等による授業観察を通して、教職員個々の能力・適正に応じた継続的な指導助言を行う（海田式アクション・リサーチ）
平成 29 年度目標
「学びの変革」パイロット校事業の 3 年間で積み重ねてきた授業実践について、各校の実践を町内で共有、活用し、改善することで、町全体の教育研究の質を高め、児童生徒の主体的な学びを促進するとともに、確かな学力の向上に資する。
評価指標
<ul style="list-style-type: none"> ・「学びの変革」パイロット校事業のパイロット校及び実践指定校において、各教科で一単元以上の「課題発見・解決学習」の単元開発を行う。 ・広島県「基礎・基本」定着状況調査 各教科通過率 県平均 +5.0 ・児童生徒の主体的な学習を進める上で重要となってくる「自己有用感」「自己肯定感」に関する項目（全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙「自分にはよいところがある」）での肯定的回答の割合の県平均との差 小学校 +2.0 中学校 +5.0 ・全国学力・学習状況調査の学校質問紙における、学校全体の学力傾向や課題の共有に関する項目での肯定的回答の割合 95% ・海田式アクション・リサーチ 教職員一人当たり年間 3 回
事業評価
<ul style="list-style-type: none"> ・「学びの変革」パイロット校事業のパイロット校及び実践指定校において、各教科一単元以上の「課題発見・解決学習」の単元開発を行った。 ・広島県「基礎・基本」定着状況調査 通過率の広島県平均との差 小学校 国語+8.5 算数+4.9 理科+9.8 中学校 国語+2.6 数学+9.4 理科+6.3 英語+8.1 ・全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙「自分にはよいところがある」と答えた児童生徒の割合の県平均との差 小学校 +4.8 中学校 -4.1

前年度に比べて中学校生徒の数値が下がっている。(-5.0) ※小学校児童は前年度比(+3.8)

- ・全国学力・学習状況調査の学校質問紙「学校全体の学力傾向や課題について、全教職員の間で共有しているか」の肯定的回答の割合 小学校 100% 中学校 100%
各学校の単元計画や指導案をホームページに掲載し、広く発信するとともに、各校の実践を町全体で共有できる環境を整えた。
- ・海田式アクション・リサーチ 各学校とも教職員一人当たり年間2~3回実施

今後の方策

- ・児童生徒の基礎的な知識・技能の習得をめざして、各種学力調査等の結果分析を各校で行うことを通して、全ての教職員が各学年段階での学力の課題を把握できるようにする。
- ・深い学びの視点から、各教科の「見方・考え方」を働かせた学習過程の質的改善を図る。
- ・広島県が策定した「学びの変革」アクション・プランについて、その趣旨を正しく理解し、中学校区での連携を図りながら、小中学校9年間を見据えた授業づくりや教職員の授業力の向上を目指していく。
- ・「課題発見・解決学習」の授業づくりにおける実践事例をホームページに公開することや、各校の取組について交流することを通して、授業改善を進めていく。
- ・「学びの変革」を更に進めていくため、校内での意識統一、情報共有を徹底していく。「学びの変革」をマネジメントと捉え、校長、教頭、主任層の連携により、各種施策を全教職員が校内で共有し、進めていく。
- ・前年度に引き続き児童生徒に達成感を感じさせる取組、一人一人をしっかりと評価するような授業づくりを進め、児童生徒の自己肯定感を高めていく。加えて、特に中学校においては、授業を始めとした教育活動全般において「生徒指導の3機能（自己決定の場を与える、自己存在感を与える、共感的人間関係を育成する）」を反映した活動を多く仕組んでいく。

学校教育課

事業名

評価

グローバル人材育成事業

B

<p>事業の目的</p> <p>変化の激しいこれからの社会において、様々な分野で活躍できるグローバル人材を育成するために、外国語活動や外国語科英語を中心に、児童生徒の語学力の向上を図るとともに、コミュニケーション能力、主体性・積極性、異文化理解の精神等の育成に資する。</p>																													
<p>事業内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業者と外国語指導助手（ALT）や日本人外国語指導助手（JALT）とのチーム・ティーチングによる外国語活動や外国語科英語の授業の充実を図る。 ・異なる文化の人との交流を通して、相互理解を深めるとともに、目的や状況に応じたコミュニケーション能力の育成を図る。 ・外部検定試験を活用して、生徒の英語力を客観的に把握、分析、検証し、日常の授業改善に生かす。 																													
<p>平成29年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語教育の充実を図り、児童生徒の語学力の向上及び外国の人と英語を使ってコミュニケーションを図ろうとする意欲の向上を目指す。 																													
<p>評価指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広島県「基礎・基本」定着状況調査（外国語科英語）の正答率：県平均 +8.0 ・広島県「基礎・基本」定着状況調査の児童生徒質問紙における設問「外国の人とコミュニケーションを図りたい」肯定的回答率：80%以上 ・小学校6年生対象の個人面接において、英語による適切な応答ができる児童の割合：80%以上 ・グローバル・キャンプ事後アンケートにおける設問「もっと英語を勉強したくなった」「外国の人や文化に興味をもった」肯定的回答率：80%以上 ・中学校卒業段階で英検3級程度以上を達成した生徒の割合：65%以上 																													
<p>事業評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広島県「基礎・基本」定着状況調査（外国語科英語）の県平均との比較 <table border="1" data-bbox="300 1532 1082 1632"> <thead> <tr> <th>H26年度</th> <th>H27年度</th> <th>H28年度</th> <th>H29年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>+13.1</td> <td>+12.5</td> <td>+5.6</td> <td>+8.1</td> </tr> </tbody> </table> ・広島県「基礎・基本」定着状況調査の児童生徒質問紙における設問「外国の人とコミュニケーションを図りたい」肯定的回答率（%）（ ）県平均 <table border="1" data-bbox="300 1720 1216 1859"> <thead> <tr> <th></th> <th>H26年度</th> <th>H27年度</th> <th>H28年度</th> <th>H29年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小学校</td> <td>68.0 (71.3)</td> <td>72.4 (74.6)</td> <td>70.6 (72.8)</td> <td>74.4 (73.0)</td> </tr> <tr> <td>中学校</td> <td>55.2 (54.7)</td> <td>68.3 (60.0)</td> <td>54.6 (59.6)</td> <td>51.6 (61.6)</td> </tr> </tbody> </table> ・小学校6年生対象の個人面接において、英語による適切な応答ができる児童の割合（%）（ ）前年値 <table border="1" data-bbox="300 1935 1216 2024"> <thead> <tr> <th>How many apples?</th> <th>Do you like sports?</th> <th>Can you play the piano?</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>90.5 (92.9)</td> <td>66.3 (96.8)</td> <td>81.4 (95.4)</td> </tr> </tbody> </table> 	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	+13.1	+12.5	+5.6	+8.1		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	小学校	68.0 (71.3)	72.4 (74.6)	70.6 (72.8)	74.4 (73.0)	中学校	55.2 (54.7)	68.3 (60.0)	54.6 (59.6)	51.6 (61.6)	How many apples?	Do you like sports?	Can you play the piano?	90.5 (92.9)	66.3 (96.8)	81.4 (95.4)
H26年度	H27年度	H28年度	H29年度																										
+13.1	+12.5	+5.6	+8.1																										
	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度																									
小学校	68.0 (71.3)	72.4 (74.6)	70.6 (72.8)	74.4 (73.0)																									
中学校	55.2 (54.7)	68.3 (60.0)	54.6 (59.6)	51.6 (61.6)																									
How many apples?	Do you like sports?	Can you play the piano?																											
90.5 (92.9)	66.3 (96.8)	81.4 (95.4)																											

- ・グローバル・キャンプ事後アンケートにおける肯定的回答率（％）

	もっと英語を勉強したくなった	外国の人や文化に興味をもった
小学校	100	100
中学校	93.1	94.7

（アンケート対象人数：小学校 3 名 中学校 38 名）

- ・中学校卒業段階で英検 3 級程度以上を達成した生徒の割合：70.2%
- ・平成 29 年度は、平成 32 年度からの外国語の教科化に向けて、小学校 6 年生対象の個人面接において、今後求められる「応答」の能力を意識し、「話を続ける」という評価を加えたため、前年度の数値との直接的な比較はできないが、一定の成果をあげることができた。
- ・小学校においては、平成 32 年度完全実施される中学年外国語活動、高学年の英語教科化に向けたカリキュラム作成や授業づくりを進めることができた。
- ・中学校においては、英語科教員 1 人あたり年 2 回、外部講師（比治山大学教授）からの指導・助言を受ける機会を設け、授業力の向上を図ることができた。

今後の方策

- ・小学校においては、新学習指導要領（平成 32 年度全面実施）に則した指導内容や指導時数を中学年外国語活動及び高学年外国語科で実施するにあたり、年間指導計画の見直し改善を行う。また小学校の教諭等の英語力や外国語活動・外国語科の授業力を高めるための研修を、外部講師（比治山大学教授）を招聘して行う。
- ・中学校においては、文法や語彙等の知識の習得にとどまらず、それらの知識を活用してコミュニケーションが図れるよう、総合的な能力の習得を目指して、授業改善に取り組む。また、新学習指導要領全面実施に即した指導を受けてきた小学生を平成 31 年度に受け入れるにあたり、小学校の外国語活動や外国語科の授業参観を行い、授業後の協議にも参加するなどし、中学校の外国語科の年間指導計画や単元及び指導内容の見直し、改善を行う。
- ・グローバル・キャンプを継続して実施し、異なる文化的背景をもつ人と英語を使って交流を図ることにより、相互理解を深めるとともに、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度や英語によるコミュニケーション能力の育成を図る。また、グローバル・キャンプに参加した児童生徒だけの取組にならないよう、実施前や実施後に全児童生徒へ、その内容や意義を広く周知し、その成果が全児童生徒へ波及するようにする。
- ・中学生を対象に年 3 回英語能力判定テストを実施し、生徒の英語力を客観的に把握、分析、検証し、日々の授業改善に生かす。
- ・外国の人とコミュニケーションを図ろうとする意欲の向上を目指し、外国語（英語）を学ぶ意義を児童生徒に伝えることができるような授業づくりに向け、指導・助言を行う。

施策

豊かな心の育成

取組と成果

平成 29 年度は、心豊かでたくましい人間の育成を目指し、次のような取組を行った。

- (1) 「心の元気を育てる地域支援事業」の全町展開を掲げ、海田中学校区、海田西中学校区の両中学校区で実施した。
- (2) 不登校児童生徒に対応するため、適応指導教室の移設や教育相談員の配置を行った。
- (3) 競技力等の向上を図るため、小学校や中学校部活動において専門的な技術指導を行った。
- (4) 児童生徒がこども議員となり、町議会の運営に準じてこども議会を開催した。

	小学校				中学校			
	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度
暴力行為(件)	3	2	5	13	24	19	19	6
いじめ(件)	0	7	6	1	10	4	5	4
不登校(人)	10	7	11	14	31	39	40	37

平成 29 年度全国学力・学習状況調査質問紙 肯定的回答割合 () 県平均 (%)

質問事項	小学校	中学校
地域社会などでボランティアに参加したことがある	68.0 (62.1)	68.9 (65.0)
学校のきまりを守っている	96.1 (94.0)	97.4 (96.3)
友達との約束を守っている	98.8 (97.5)	99.1 (97.8)
人が困っているときは、進んで助けている	91.8 (86.4)	81.1 (85.9)
いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う	98.4 (96.8)	97.8 (94.7)

重点的に取り組んだ事業

事業名	内容	評価	頁
心の元気を育てる地域支援事業	児童生徒が他者、社会、自然・環境とのかかわりの中で達成感や自己の成長を実感し、自尊感情を高める3校合同あいさつ運動とクリーン活動を、継続的に実施する。	A	14
青少年サポート事業	家庭環境や発達障害などの様々な課題を抱える児童生徒を支援するため、個別指導による学力の補充や教育相談等を行い、学校と連携しながら、学校への復帰を支援する。	A	15
競技力等向上対策事業	町内高等学校の運動部員や地域の指導者による技術指導等を行い、児童生徒の競技力の向上や部活動の活性化を支援する。	B	16
こども議会運営事業	児童生徒がまちづくりの意識を持つとともに、行政の仕組みや議会の役割への関心を高めるため、こども議会を開催する。	A	17

評価

平成 29 年度も中学校区での小中学校合同あいさつ運動やクリーン活動、町内全小中学校合同でのあいさつ運動を実施するなど、児童生徒が他者、社会、自然・環境とのかかわりの中で達成感や自己の成長を実感し、自尊感情を高めることができた。また、こども議会で決議されたあいさつウィーク等を実現させるため、児童生徒が主体となって取り組むことができた。

暴力行為やいじめについては、担任、生徒指導主事等複数で適切に対応し、保護者、専門機関とも連携し継続して指導を行った。

不登校対策については、適応指導教室の移設や教育相談員の増員により、適応指導教室通室者数や、小学校での相談・支援件数は増加した。しかし、事業の周知方法や学校との連携については課題があるため、現状を踏まえた対策が必要である。

2 年目の実施となるこども議会では、各学校の授業等で一般質問について検討するなど、取組をこども議員以外の児童生徒にも広げることができ、まちづくりや行政の仕組み等を学ぶ機会を提供することができた。

また、重点的に取り組んだ事業以外にも、読書活動については、町立図書館と連携して「子ども司書」養成講座の現地研修を行い、14 名の児童が「子ども司書」に認証された。また、各校に配置している学校司書が中心となり、児童生徒の望ましい読書習慣の形成を図り、日常生活において読書が活発に行われるよう工夫した取組をすすめた。海田西中学校においては、特色ある優れた実践が認められ、平成 29 年度「子供の読書活動優秀実践校・図書館・団体（個人）に対する文部科学大臣表彰」を受賞するなど、成果をあげることができた。

事業の目的
学校・家庭・地域社会が一体となった体験活動を実施する中で、児童生徒の自尊感情を高め、社会参加の意欲や態度等豊かな心の育成を図る。
事業内容
「あいさつ ふれあい 夢いっぱい 海田町」の地域まるごと宣言のもと、児童生徒が家庭や地域社会とのかかわりの中で達成感や自己の成長を実感し、自尊感情を高める各中学校区合同あいさつ運動とクリーン活動を継続的に実施する。
平成29年度目標
児童生徒の自尊感情や地域社会への参画意識の向上を図る。
評価指標
<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の推進協議会への参画と活動の様子。 ・自尊感情・社会参画意識が高まり、児童生徒主体の活動ができているか。
事業評価
<ul style="list-style-type: none"> ・推進協議会や子ども会議において、児童生徒代表が取組の具体や思いを、自分の言葉で語る姿を見ることができた。その意見がクリーン活動、あいさつ運動や植栽活動の質を高め、児童生徒主体の活動とすることにつながった。 ・継続した合同あいさつ運動やクリーン活動等の体験活動を通して、児童生徒の自尊感情や社会参画意識を高い水準で保つことができた。 ・心の元気アンケート調査での社会参画意識について、児童生徒の肯定的評価は82%と高いが、保護者の評価は64%と低く、児童生徒と保護者に大きな差が見られた。 ・こども議会で決議された「海田町6校合同あいさつウィークの実施」と「海田町ごみ撲滅宣言」の実現に向けて、心の元気を育てる地域支援事業の中で具体的に取り組むことができた。
今後の方策
<ul style="list-style-type: none"> ・これらの取組が更に活性化するよう、引き続き保護者、地域へ積極的に発信するとともに、児童生徒によるあいさつ運動を積極的に進める。 ・地域社会への参画の視点から、今後も継続して地域の方と共にクリーン活動、あいさつ運動や植栽活動に取り組む。 ・各行事の企画・立案・運営について、児童生徒が主体となった取組になるよう、一つ一つの取組に対して適切な評価を行い、自尊感情の更なる向上を図る。 ・児童生徒に対して地域行事への参加を呼びかけるなど、自発的な活動ができるように、引き続き働きかける。

事業の目的

教育相談や個別指導による基礎学力の補充等を行い、学校や関係機関と連携しながら、様々な課題を抱える児童生徒の学校・学級復帰を支援する。

事業内容

- ・ 公共施設の一室に町内適応指導教室を設置し、教員免許所持者を指導員として配置する。
- ・ 教育相談や学力補充等を通して、児童生徒の学校・学級復帰を支援する。
- ・ 教職員や適応指導教室指導員、教育相談員の連携により、指導・相談を実施する。

平成29年度目標

教育相談の充実や、適応指導教室等における児童生徒への学力補充により、不登校傾向にある児童生徒や適応指導教室通室者の学校・学級復帰や社会的自立を促す。

評価指標

- ・ 不登校傾向にある児童生徒に対する教育相談件数
- ・ 適応指導教室通室者に対する学校復帰者の割合 30%
- ・ 不登校児童生徒の状況を把握するための定期的な連絡会の開催

事業評価

教育相談件数

	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度
相談件数(件)	1,010	1,895	1,569	1,558

- ・ 教育相談員を増員して2名体制とし、各中学校区に配置した。家庭訪問や校内別室通室者への支援を行い、児童生徒の状況把握や教育相談を行うことができた。
- ・ 適応指導教室通室者のうち、学校に復帰した児童生徒の割合 2人/7人(28.6%)
- ・ 教育委員会(加藤会館)内に設置していた適応指導教室を「さんさんルーム」として真田会館に移設した。指導員が常駐し、通室しやすい環境を整えた。
- ・ 月1回の教育相談員、適応指導教室指導員、教育委員会事務局の3者間の連絡会を継続し、児童生徒の個々の状況や支援の仕方等を学校へ伝え、指導に活かすことができた。

今後の方策

- ・ 平成31年度から適応指導教室を中核に据えた家庭教育支援チームとして支援を行うことを目指し、子育てや家庭教育に関する不安や悩みを気軽に相談でき、支援を受けられる体制を構築する。そのために、家庭教育、乳幼児教育、学校教育に関する公的な機能やボランティア組織等の資源を洗い出し、ネットワークを構築するための連携を図る。
- ・ 各教育相談員と適応指導教室に専用電話を配備して、教育相談や学校・各機関との連携に活用するとともに、その他備品等を整備し、相談や通室をしやすい環境を整える。
- ・ 案内の作成等により事業の周知を図り、不登校児童生徒や保護者からの相談や適応指導教室への通室に繋げていく。
- ・ 引き続き教育相談員、適応指導教室指導員、教育委員会事務局の3者で連絡会を月1回開催し、不登校傾向児童生徒の状況を情報共有するとともに、学校に対して児童生徒への指導・支援体制を整えるよう指導・助言する。

事業の目的

町内高等学校の運動部員や地域の指導者が、技術指導等を行うことにより児童生徒の競技力の向上や部活動の活性化を図る。

事業内容

- ・町内高等学校の陸上部員を指導者として招き、陸上記録会に向けて技術指導等を行う。
- ・専門的な技術指導力を備えた指導者を中学校の部活動に配置し、顧問と連携して技術指導等を行う。

平成29年度目標

児童生徒へ指導者による専門的な技術指導等を行い、競技への興味・関心を高めるとともに部活動等の活性化を図る。

評価指標

- ・町内高等学校陸上部員による陸上記録会に向けた指導日数 3回
- ・専門的な技術指導力を備えた指導者による部活動の指導時間の確保

事業評価

小学校	海田小	海田東小	海田西小	海田南小
指導回数	2	3	2	3
参加児童数(延べ人数)	118	146	104	280

- ・町内高等学校陸上部員の指導により、競技への関心を高めるとともに、種目ごとに分かれて練習等を行い、陸上記録会等に向けて技術指導を行うことができた。

	部活動	指導時間		部活動	指導時間
海田中	陸上部	192	海田西中	野球部	500
	サッカー部	214		陸上部	150
	家庭科部	110		バスケットボール部	105
				サッカー部	245
				茶道部	66
				文化部	68

- ・学校の要望に応じた指導時間を確保し、指導日においては、顧問と連携して地域の指導者による専門的な技術指導を行うことができた。平成29年度からは、他事業との整理を行ったことにより、文化部においても指導時間を確保することができた。

今後の方策

- ・小学校への指導者の派遣は年3回を予定し、引き続き町内高等学校の運動部員による指導を行う。
- ・中学校については、指導が必要な部活動の状況を希望調書により把握し、必要に応じて配置する。
- ・情報収集に努め、定期的に指導を行える人材を確保する。

事業の目的
ふるさと海田を再発見し、自分たちのまちづくりという意識の涵養を図るとともに、政治的教養を高めるための教育の一環として、行政の仕組みや議会の役割への関心を高める。
事業内容
各校から選出されたこども議員に対し、勉強会や事前準備を行い、実際の町議会の運営に準じてこども議会を開催する。
平成29年度目標
児童生徒が自ら町の課題や将来像について考え、議会を開催することにより、行政の仕組みや議会の役割に関心を持つとともに、政治参加意識の高揚を図る。
評価指標
<ul style="list-style-type: none"> ・町の課題や将来像について考え、まちづくりの意識をもつ取組ができたか。 ・行政の仕組みや議会の役割への関心を高めることができたか。
事業評価
<ul style="list-style-type: none"> ・選出されたこども議員は、事前勉強会や町議会議員と行った町内視察を踏まえて、町の課題や将来像を問う意識の高い質問を行った。 ・こども議員は、実際の町議会の流れにそった議会を体験し、行政の仕組みや議会の役割を体感した。一般質問では、ほとんどのこども議員が執行部の答弁を受けての再質問を行い、議論を深めることができた。 ・小学校ではこども議員が所属する学級ごとに一般質問の内容を検討し、中学校では生徒会活動を中心として取組んだ。また、議会後は、議会の様子について報告会を行うなど、こども議員だけでなく、他の児童生徒も本事業に関わることもできた。
今後の方策
<ul style="list-style-type: none"> ・選出されたこども議員だけでなく、その他の児童生徒も事業に関わるができるよう学年、学級又は生徒会単位での一般質問の作成や、児童生徒向けの報告会を行うなどの取組を進め、今後は取組を教育課程の中に組み入れるなど、さらに充実した取組に発展させていく。 ・研修会や本議会を円滑に進めるため、学校担当者との連絡会を適時行う。 ・再質問をしやすいように事前勉強会の内容や本会議の流れを工夫する。 ・こども議員の提案によるまちづくりを町の取組に反映できるよう、町内各局との連携を図る。なかでも、本会議一般質問において、「検討していく」旨の答弁をしたものについては、執行部が経過報告書を作成し各小中学校に配付するなど、議会終了後の情報提供の機会を設ける。

施策

児童生徒の安心・安全の確保と質の高い教育環境の整備

取組と成果

平成 29 年度は、児童生徒が安心して学校生活を送れるよう、次のような取組を行った。

- (1) 学校施設の安全を確保するため、施設整備を行った。
- (2) 学校安全ボランティアとして地域の協力を得て見守り活動を実施した。
- (3) 保護者や地域の方に緊急メールとして不審者情報や事件・事故情報を配信した。
- (4) 児童生徒の学習内容理解を支援するため、ICT 機器を整備した。

学校安全ボランティア登録者数（人）

	H26 年度	H27 年度	H28 年度	H29 年度
登録者数	98	98	88	102

重点的に取り組んだ事業

事業名	内容	評価	頁
小中学校安全管理事業	登下校時の学校安全ボランティアを募集し、帽子・腕章を配布し、活動環境を整備する。また、緊急メール配信システムを活用し、不審者情報等の配信を行う。	A	19
小中学校耐震補強事業	学校施設の非構造部材の耐震補強工事等を行う。	A	20
ICT 環境整備事業	ICT 環境の充実により、質の高い教育活動を展開する。	B	21

評価

児童生徒が安心して学校生活を送れるよう、教育環境の整備を進めた。

学校安全ボランティアについては、ボランティア登録者と学校が緊密に連携し、一体となって児童生徒の登校時の安全を確保できた。

学校施設整備については、平成 28 年度に完了できなかった非構造部材の耐震化工事を行い、事業が完了した。今後も未実施の棟の耐震化を計画的に進めるとともに、必要に応じて施設の修繕や改修等を行っていく。

ICT 環境整備については、平成 28 年度に引き続きタブレット端末を各学校に整備した。それらを活用した授業研究等を行うことで、質の高い教育活動を展開することができた。

事業の目的

児童生徒の安全確保及び学校の安全管理を徹底する。

事業内容

- ・町内の小学校新1年生全員に防犯ブザーを支給する。
- ・学校安全ボランティアを募集し、通学路の見回りや、登下校時の児童生徒の見守りを行う。
- ・緊急メール配信システムを活用し、不審者情報等の配信を行う。
- ・通学路の交通安全の確保に向けて、関係機関との対策検討会を開催する。

平成29年度目標

学校安全ボランティア等の地域の方の協力や教員による通学路の安全点検、緊急メール配信システムの活用等により、児童生徒の安全を確保する。

評価指標

児童生徒や学校に対して、事故や犯罪から守るための対策を確実に実施することができたか。

事業評価

- ・町内の小学校新1年生に防犯ブザーを支給し、使い方等の指導を行った。また、全児童に対しても、防犯ブザーを携帯するよう学校だより等で周知を図った。
- ・学校安全ボランティアや、その他の地域の方の活動により、児童生徒が安全に登下校できた。
- ・各校の教員による通学路の安全点検を実施した。
- ・緊急メールの配信により、登録者に対し、不審者情報等の情報配信を速やかに行った。
- ・通学路交通安全プログラム対策検討会を開催し、PTA 等から挙げた危険箇所について、現状や対策方針等の意見交換を行った。
- ・これまでの継続的な働きかけにより、学校安全ボランティア、緊急メール配信、共に登録者数が前年度より増加した。

	H27 年度	H28 年度	H29 年度
学校安全ボランティア登録者数	98 人	88 人	102 人
緊急メール配信登録者数	1,425 人	1,631 人	1,933 人

今後の方策

- ・学校安全ボランティアの登録者数確保に向けて、広報紙等で周知を行う。
- ・学校安全ボランティアや地域の方の協力を得ながら、登下校や学校生活全般に関して、児童生徒にとって安全安心な環境づくりを行う。
- ・自然災害や不審者、事件・事故などの情報提供・注意喚起を迅速に伝えるため、緊急メールを多くの方に配信できるよう、登録への呼びかけを行う。
- ・各校が毎月行う施設の安全点検を確実に実施するよう指導を行う。
- ・関係機関との対策検討会を継続して実施し、通学路の改善を図る。
- ・平成30年7月豪雨災害を受け、児童生徒が災害に適切に対応する能力の基礎を培い、その能力を高めるためにも、今後はより一層、防災教育を推進していく。

事業の目的

学校施設の耐震化を計画的に行い、安全な学習環境を整備する。

事業内容

学校施設の耐震化について、非構造部材の耐震補強工事等を行う。

平成29年度目標

- ・小中学校の体育館のうち3棟（海田東小学校、海田中学校、海田西中学校）について、地震による落下物や転倒物から児童生徒を守るため、非構造部材の耐震補強工事を行う。

評価指標

- ・小中学校体育館3棟（海田東小学校、海田中学校、海田西中学校）の非構造部材耐震補強工事の完了
- ・非構造部材の耐震化が必要な棟に対する耐震化等の実施割合

年度	H29 年度
全棟数①	24
実施済棟数②	10
H29 実施棟数③	3
未実施棟数	11
実施率 (②+③/①)	54.2%

事業評価

- ・平成28年度内に工事が完了できなかった小中学校体育館3棟（海田東小学校、海田中学校、海田西中学校）の非構造部材耐震補強工事が完了した。

今後の方策

- ・非構造部材の耐震補強工事等が完了していない棟について、計画的に耐震補強工事等を進めるとともに、学校施設の教育環境の向上、安全性の確保を図るため、修繕及び改修についても必要に応じて行っていく。

事業の目的																				
ICT 環境を整備し、ICT 教材の開発等、タブレットを活用した教師の授業力の向上を図り、児童生徒の学習内容理解を支援する。																				
事業内容																				
<ul style="list-style-type: none"> ・タブレット等の ICT 機器を各小中学校に整備する。 ・児童生徒の理解や思考を促す ICT 機器の活用について、各校で授業実践を重ね、それを交流することで共有を図る。 																				
平成 29 年度目標																				
<ul style="list-style-type: none"> ・小中学校へ教師用タブレットを整備し、効果的な活用を行う。 ・タブレットの様々な活用方法を研究し、各校で実践を行い、成果と課題を集約する。 ・教諭等が年に 1 回以上タブレットを活用した授業を行い、その学習指導案または実践事例報告書を作成する。 																				
評価指標																				
<ul style="list-style-type: none"> ・タブレットの整備状況 ・町内研修会の開催状況 																				
事業評価																				
<ul style="list-style-type: none"> ・タブレットの整備状況（平成 27～29 年度合計） <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;">学校名</th> <th style="width: 12.5%;">海田小</th> <th style="width: 12.5%;">海田東小</th> <th style="width: 12.5%;">海田西小</th> <th style="width: 12.5%;">海田南小</th> <th style="width: 12.5%;">海田中</th> <th style="width: 12.5%;">海田西中</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>学校別台数 (特別支援学級配布台数)</td> <td>10 (1)</td> <td>13 (3)</td> <td>8 (2)</td> <td>13 (2)</td> <td>16 (3)</td> <td>11 (1)</td> </tr> </tbody> </table> <p>平成 29 年度は小中学校へ新たに 21 台の教師用タブレットを整備した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT 教育補助講師を配置し、学習内容理解の支援を目的とした ICT 教材の開発や、タブレット等を活用した授業力の向上を図るための授業補助等を行った。 ・平成 28 年度の研修や活用事例での成果と課題から、ICT 機器の有効な活用方法を研究し、各学校のタブレット活用実践や授業研究の中に取り入れた。各教科とも活用実践の事例は増えたが、実践事例報告書の作成には至らなかった。 							学校名	海田小	海田東小	海田西小	海田南小	海田中	海田西中	学校別台数 (特別支援学級配布台数)	10 (1)	13 (3)	8 (2)	13 (2)	16 (3)	11 (1)
学校名	海田小	海田東小	海田西小	海田南小	海田中	海田西中														
学校別台数 (特別支援学級配布台数)	10 (1)	13 (3)	8 (2)	13 (2)	16 (3)	11 (1)														
今後の方策																				
<ul style="list-style-type: none"> ・平成 29 年度の活用事例の成果と課題から、より効果的な活用を推進する。 ・海田西中学校を ICT 教育のモデル校とし、生徒用タブレットを 20 台整備するとともに、タブレットを授業で活用できるよう無線 LAN アクセスポイントの設置を行う。 ・モデル校を中心に、ICT 機器を用いた授業に取り組み、効果的な使用方法の研修を進め、実践事例報告書の作成等により他校へその取組を普及する。 ・モデル校の取組を基にして、児童生徒用タブレットの整備の拡充等、ICT 環境の整備を進める。 																				

施策

生涯学習の推進

取組と成果

平成 29 年度も引き続き、「いつでも・どこでも・だれでも」学習でき、その学習成果が適切に評価・活用されることを目指し、次のような取組を行った。

- (1) 学習ニーズに対応した学習機会の確保・充実を図った。
- (2) 人材の発掘・養成と積極的な活用を行った。
- (3) 社会教育施設の整備・充実を図った。
- (4) 豊かな人間性をはぐくむ読書活動を推進した。

重点的に取り組んだ事業

事業名	内容	評価	頁
公民館管理運営事業	青少年育成講座及び定期講座等の、住民の自発的な生涯学習活動を支援することにより、公民館活動を推進する。	B	23
公民館主催講座事業	子供、大人から高齢者まで、それぞれの世代に応じた主催講座を開催する。	B	24
公民館整備事業	(仮称)海田公民館整備に向けて、実施設計を行う。	A	26
図書館管理運営事業	住民の多様な読書活動に応じることができるよう、きめ細やかなサービスを提供するとともに、展示方法の工夫等により多様な資料の紹介を行うことで、読書活動の推進を図る。	A	27
蔵書整備事業	住民のニーズに応じた図書等資料の収集や情報の提供を行い、読書の推進や図書館の利用促進に努める。また、子育て世代を対象にした育児書・児童書の充実を図る。	A	29

評価

公民館 2 館と図書館がそれぞれの施設の特性を活かし、住民の多様な学習ニーズに対応した事業を展開することができた。今後は、さらに各館の重点施策を明確にして事業を展開させていくことが重要である。

公民館

事業名

公民館管理運営事業

評価

B

事業の目的				
生涯学習の場として、幅広い世代の住民へ学習機会や集会の場を提供することにより、教養の向上、健康の増進、情操の純化を図り、生活文化の振興、社会福祉の増進に寄与する。				
事業内容				
青少年育成講座及び定期講座等の、住民の自発的な生涯学習活動を支援することにより、公民館活動を推進する。				
平成29年度目標				
子供から高齢者まで、多様な学びを支援するとともに、関係団体等との連携協調を図り、人材の発掘・育成に努める。				
評価指標				
公民館延利用者数（数値目標：110,000人）				
事業評価				
○公民館年間利用状況（※公民館事業は、主催講座と自主講座の年間延利用者数）（人）				
利用者	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度
公民館事業	72,489	75,783	78,217	77,119
一般利用	20,899	23,605	27,267	28,852
計	93,388	99,388	105,484	105,971
○自主講座在籍者数				
・青少年健全育成講座				
	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度
講座数	19	18	19	19
在籍者数（人）	321	297	299	291
・定期講座				
	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度
講座数	115	111	110	108
在籍者数（人）	1,696	1,643	1,668	1,603
・青少年育成講座や成人対象の講座、次世代の地域リーダー養成講座を通じた人づくり・地域づくりへの取組が地域・家庭の教育力の向上や地域の活性化につながっているとして認められ、第70回優良公民館表彰を受賞した。				
今後の方策				
利用者の固定化、高齢化が進んでいる現状を踏まえ、今後はこれまで利用の少ない年代（子供とその保護者、現役世代）への普及・啓発に努めるとともに、引き続き青少年育成講座や定期講座等の住民の自発的な生涯学習活動を支援することにより、公民館利用の促進を図る。				

公民館

事業名

公民館主催講座事業

評価

B

事業の目的

地域住民の多様な学習要求に応えるため、公民館が主催する講座を開設する。

事業内容

- ・子供から高齢者まで、それぞれの世代に応じた主催講座を開催する。
- ・将来の地域リーダーを養成するため、「未来のまちのおせっかいさん」養成講座を開設する。

平成29年度目標

- ・マナー化しないよう、創意工夫や改善を行い、講座内容の充実を図る。
- ・「未来のまちのおせっかいさん」の自立した団体としての活動を支援するとともに、新たな人材発掘・育成に努める。また、引き続き組織体制等について検討する。

評価指標

- ・主催講座の充実が図れたか。
- ・「未来のまちのおせっかいさん」について、自立した活動が継続できたか。また、組織体制の方向性を定めることができたか。

事業評価

- ・高齢者学級やジュニアサマースクール等の継続事業については、内容を工夫して実施し、参加者が増加した。また、新規事業として体操やニュースポーツなどのスポーツ振興等にも取り組み、概ね好評であった。
- ・「未来のまちのおせっかいさん」については、防災イベントを実施するとともに、情報冊子を作成し、配布することはできたが、新たな人材発掘・育成には至らなかった。また、組織体制や今後の方向性については、定まらなかった。

○家庭教育支援事業「未来のまちのおせっかいさん養成講座」

養成講座を開催し、防災イベント『親子で防災キャンプ』を実施するとともに、活動内容を周知するため、「海田町おせっかい情報誌（防災キャンプ版）」を作成し、町内小学校を通じて配布を行うことで、団体の活動について周知することができた。

- ・ワークショップ・企画会議7回開催（参加者49人）
- ・防災イベント（参加者7組25人）

○【新規】ニュースポーツ講座

手軽に町民の健康づくりの推進を図るとともに、ニュースポーツの魅力を広めることを目的に実施した。（開催回数6回、参加者28人）

○【新規】絵手紙講座

素朴で温かな手紙を作る楽しさを広めることを目的に実施した。（開催回数6回、参加者72人）

○【新規】かいた今昔を訪ねて

平成 28 年町制施行 60 周年事業で行った『かいた今昔写真展』で展示した海田町内の写真を見て、その撮影ポイントを探して街歩きを行い、海田町の遷り変わりを体験した。

また、郷土料理の伝承として、夏には旬のコノシロを材料に『さつま』を、冬には旬のカキを使って『カキの土手鍋』を作って試食をした。(開催回数 4 回、参加者 37 人)

○【新規】子供体操教室

将来のスポーツ少年・少女を目指すチビっ子応援プログラムとして体操講座を開設し、未就学児コース、小学生 1～2 年生の 2 クラスで、マットや跳び箱、鉄棒などを用いて体感トレーニングを行った。(開催回数 8 回、参加者 86 人)

○青少年育成事業 (ジュニアサマースクール)

	H26 年度	H27 年度	H28 年度	H29 年度
講座数	14	15	15	17
参加者(人)	273	271	254	380

○高齢者学級 (寿大学, 延寿大学)

	H26 年度	H27 年度	H28 年度	H29 年度
講座数	2	2	2	2
参加者(人)	396	223	255	303

今後の方策

- ・講座のメニューや内容の充実を図るとともに、地域住民同士が学びあい、教えあう相互学習等が活発に行われるよう、また、自発的な運営を継続することができるよう支援する。
- ・社会教育施設間の連携を強化するとともに、他部署や他機関等とも連携し、事業を実施する。
- ・幅広い学習機会の提供と内容の充実に努め、公民館の利用者層の拡大を図る。
- ・職員の企画・運営力、人をつなぐコミュニケーション力、コーディネート力等のスキルの向上を図る。
- ・「未来のまちのおせっかいさん」養成講座については、メンバーも減少傾向にあり、一人ひとりの負担が増えつつある現状を踏まえ、別の方法による人材育成等も視野に入れながら、事業のあり方や方向性について検討する。

公民館

事業名

評価

公民館整備事業

A

事業の目的
築40年を超えて著しく老朽化した海田公民館を建て替える。
事業内容
基本計画の策定，基本設計業務及び実施設計業務の実施後，(仮称)海田公民館を建設する。
平成29年度目標
地域活動の拠点・生涯学習を推進する場として機能的で魅力ある公民館となるよう，平成28年度に策定した基本設計を基に，実施設計業務を行う。
評価指標
平成32年度の開館に向けて，地域活動の拠点・生涯学習を推進する場として機能的で魅力ある公民館とするための実施設計業務を行えたか。
事業評価
<ul style="list-style-type: none">・機能的で魅力ある公民館とするため，社会教育委員会議及び公民館運営審議会から出された意見・要望を可能な限り取り入れ，設計に反映させた。特に，織田幹雄記念館に関しては，委員12名及びファシリテータ2名から構成される織田幹雄記念館整備活用検討委員会を立ち上げ，計3回の会議を開催し，ハード面からソフト面にわたり，多種多様な意見を吸い上げた。また，公民館・織田幹雄記念館の設計業務の状況説明及び意見聴取のため，織田幹雄氏の御子息である織田正雄氏及び和雄氏に計2回，面会した。・限られた予算と建設スペースの中で機能的で魅力ある公民館とするため，実施設計業務の受託業者との連絡・協議を密にした。・当初スケジュールどおり実施設計業務を完了させることができなかった。
今後の方策
平成32年度の開館に向けて，建設工事を進める。

事業の目的

住民が心豊かな生活を実現することができるよう、知の拠点として快適な読書環境を整え、住民の生涯学習や文化・教育、社会活動等の進展に寄与する。

事業内容

- ・住民の多様な読書活動に応えることができるよう、きめ細やかなサービスを提供するとともに、快適な施設環境を整える。
- ・小中学校と連携して児童生徒用ガイドブックの活用を行うとともに、読書感想文コンクールを実施する。
- ・子供向け、大人向けの主催講座を開催する。
- ・保健センターや民生委員・児童委員と連携し、ブックスタート事業を行う。

平成29年度目標

- ・展示方法を工夫し、読書活動の推進を図る。
- ・ニーズや話題性等を考慮し、主催講座の内容の充実を図る。
- ・新たなボランティアの発掘・育成と活動中のボランティアのスキルアップを図る。

評価指標

- ・貸出冊数 150,000 冊
- ・主催講座参加者の満足度

事業評価

- ・月ごとにテーマを変えた展示を行い、多様な種類の図書の紹介を行うことができた。
- ・来館者数は増加傾向にあるが、インターネットや携帯電話の普及など社会的な読書環境の変化により利用者数、貸出冊数とも前年度に比べ減少している。
- ・専門的な講師の招聘などにより、各種講座参加者の満足度は全体的に高かった。
- ・お話ボランティア養成講座開催により、活動中のボランティアのスキルアップを図るとともに、新たなボランティア登録者を確保することができた。
- ・各機関と連携を図りながら、子供の読書活動推進に長年取り組んだ功績を認められ、「子供の読書活動優秀実践図書館」として文部科学大臣表彰を受賞した。

○図書館来館者数 (人)

	H26 年度	H27 年度	H28 年度	H29 年度
利用者数	86,576	88,733	87,576	90,259

○図書館利用者数 (延べ人数) (人)

	H26 年度	H27 年度	H28 年度	H29 年度
利用者数	43,014	44,698	44,372	43,963

○図書館資料貸出冊数 ※（ ）内は、分館の実績 (冊)

	H26 年度	H27 年度	H28 年度	H29 年度
貸出冊数	149,517 (13,271)	155,513 (14,957)	155,177 (13,958)	154,416 (15,631)

○主催講座参加者の満足度（アンケートで「満足」と回答した割合）

- ・夏休み子ども講座「はじめての将棋教室」 77.7%
- ・冬休み子ども講座「ひかりの不思議」 100.0%
- ・春休み子ども講座「折り紙教室」 100.0%
- ・おはなしボランティア養成講座第1回「おはなしを読むことの基本」 64.3%
- ・おはなしボランティア養成講座第2回「読み聞かせの実習」 72.7%
- ・文化講座「読書って楽しい！」 90.0%
- ・秋の特別企画「ブシとムシ」 84.2%

今後の方策

分館や小中学校と連携して情報の共有化や事業の広報を徹底させるとともに、広島県立図書館や町の他部署とも連携して事業を行い、図書館利用の促進を図る。

引き続き、新規ボランティアを募集するとともに、既存のボランティアグループの育成に取り組む。

図書館

事業名

蔵書整備事業

評価

A

事業の目的				
住民の多様なニーズに対応した図書等資料の整備を進め、住民に必要な情報提供や調査等の支援を行い、住民の生涯学習等の推進を図る。				
事業内容				
<ul style="list-style-type: none"> ・住民のニーズに応じた図書等資料の収集や情報の提供を行う。 ・幼児・児童コーナーを活用し、児童向け資料や子育て世代を対象とした育児書等の充実を図る。 				
平成29年度目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・利用者のニーズを的確に把握し、各種選定資料などを参考に広範なジャンルの図書を整備する。 ・展示方法等に工夫を加え、利用促進を図る。 				
評価指標				
<ul style="list-style-type: none"> ・リクエストによる資料整備状況 ・児童向け図書資料の充実が図られたか。 ・貸出冊数 150,000 冊 				
事業評価				
<ul style="list-style-type: none"> ・リクエストに応えながら、特定の領域に偏らせることなく蔵書を整備することができた。 ・学校司書や読書ボランティアと連携して児童に必要な図書を整備し、児童の学習環境を整えることができた。 ・毎月テーマを決めて図書の展示を行い、様々な分野の図書の紹介と利用促進を図ることができた。 				
	H26 年度	H27 年度	H28 年度	H29 年度
図書館間相互貸借件数（借受）（件）	23	31	41	21
リクエストによる購入冊数（冊）	141	143	157	153
貸出冊数（冊）	149,517	155,513	155,177	154,416
蔵書冊数（冊）	124,347	126,602	128,888	130,519
うち児童書（冊）	41,213	42,317	43,325	44,235
今後の方策				
<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、図書館職員の資質・能力の向上に努め、選書や書架の配置等を適切に行うとともに、各分館のリクエストや要望等にも応えながら、蔵書整備を進める。 ・利用者ニーズや地域社会の状況の変化に合わせて積極的に蔵書を更新することにより、利用促進を図る。 				

施策

地域文化の継承と創造

取組と成果

平成 29 年度も引き続き、住民が主体となって地域文化を守り、生かし、生み出す活動がおこなわれることを目指し、次のような取組を行った。

- (1) コンサートや事業の実施を通して、芸術・歴史文化の学習・体験機会の確保に努めた。
- (2) 住民の文化活動の支援を行った。
- (3) 指定文化財の公開や管理・展示のほか、教育普及事業を通して文化財等の保存と活用を推進した。

重点的に取り組んだ事業

事業名	内容	評価	頁
文化財保護事業	地域の文化財保護意識を高めるため、指定文化財の公開や、施設における展示・事業を実施する。	A	31
芸術文化振興事業	優れた芸術文化にふれる機会を提供するとともに、各団体が主体的に文化振興事業を実施できるよう支援する。	A	33

評価

文化財保護事業については、県指定重要文化財旧千葉家住宅を適切に管理するとともに、公開体制・内容を見直し、来場者数も増加した。整備した主屋活動室を活用した新たな事業も実施し、広く町内外に海田町の歴史文化を発信することができた。地域学習の場としての学校利用も続いており、次の世代へ地域の文化財を守り伝える活動も定着しつつある。

芸術文化振興事業については、住民団体等と連携し、音楽を中心に様々な芸術文化にふれる機会を提供できた。

事業名

評価

文化財保護事業

A

事業の目的

地域に残る文化財や地域資料を適切に保護・管理・活用し、地域の歴史や文化に関する理解・関心を高める。

事業内容

- ・旧千葉家住宅をはじめとする指定文化財の保存管理を適切に行う。
- ・ふるさと館及び旧千葉家住宅の運営を通して、歴史資料の収集、保管、展示、調査研究及び教育普及活動等を行う。

平成29年度目標

- ・旧千葉家住宅の公開体制を検討するとともに、主屋活動室を活用した展示・事業を開催する。
- ・地域の歴史を学ぶ場として学校教育との連携を促進する。

評価指標

- ・主屋活動室を効果的に活用した公開体制を整備し、適切な保護及び活用を図ることができたか。
- ・学校教育との連携を促進することができたか。

事業評価

- ・主屋活動室の整備に伴い、一般公開日を連続する4日間へ変更するとともに、座敷棟の公開とあわせて、新たに主屋活動室で毎月展示を行った。町所蔵資料等の公開や、町内小学校の学習成果発表など、見学内容の幅が広がり、見学者数が大きく増加した。また、美術と町内文化財をコラボレーションする展示を2回実施した。町HP・SNS、新聞等で積極的に広報し、広く来場者を集めることで、文化財保護の意識を高めるとともに、その活用を図ることができた。

○旧千葉家住宅見学者数 (人)

	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度
見学者数	1,171	1,595	1,808	3,050

○「旧千葉家住宅×三宅家住宅“SAKURA”展」

平成29年4月2日 開催 両会場来場者数 582人

○「Art in 旧千葉家住宅」

平成29年11月23日 開催 来場者数 60人

- ・ふるさと館では、常設展示の展示替えのほか、企画展「ふるさと館のひなまつり展」では、収蔵資料に加えて、創作作品も展示し、多くの来場者を集めた。

- ・企画展「むかしのくらし展」については、新収蔵資料も活用して、小学校3・4年の単元に即した内容とし、ボランティアの協力を得て見学来館の際に体験プログラムを実施した。その結果、町内外の小学校など8団体延べ498人が来館し、前年度に比べ74人増加した。

○ふるさと館来館者数 (人)

	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度
来館者数	8,095	10,040	10,326	10,551

- ・旧千葉家住宅・ふるさと館ともに、町内の地域学習の場として、ボランティアの協力も得ながら、見学・解説等の対応を行った。町内小中学校の授業での利用や教職員の研修など、学校教育と連携した活動も継続している。

○学校利用回数（教職員研修を含む） (回)

	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度
旧千葉家住宅	1	2	6	5
ふるさと館	8	13	13	11

今後の方策

- ・旧千葉家住宅については、H32年度に開館する（仮称）海田公民館、（仮称）織田幹雄記念館と一体的な運営を行うための体制作り、準備を行う。
- ・文化財としての適切な保護と活用を両立させるため、主管課と連携して、納屋・角屋の改修を検討していく。
- ・地域学習の場としての利用を促進するため、引き続き学校教育との連携を進める。

事業の目的

演奏会やコンサート等を文化団体と連携して実施することにより、住民が芸術文化に接する機会を提供し、芸術文化への関心を高める。

また、文化団体の活動を支援し、地域文化の振興を図る。

事業内容

NHK 交響楽団の団員・団友で構成される「エクシモン弦楽四重奏団」によるクラシックコンサートの開催や、海田町民文化振興会及び音楽祭実行委員会と協働し、小学生から一般までの団体が一堂に会しての演奏会等の芸術文化事業を実施する。

また、海田町民文化振興会及び音楽祭実行委員会に対し、それぞれ補助金を交付し、事業運営を支援する。

平成29年度目標

- ・より多くの住民に芸術文化にふれあう機会を提供する。

評価指標

- ・充実した芸術文化活動を実施したか。(来場者数及び満足度の維持以上 ±5%以上)

事業評価

- ・参加者数 (人)

イベント名	H26 年度	H27 年度	H28 年度	H29 年度
クラシックコンサート	151	191	157	168
はじめて音楽会	147	120	120	116
ふれあいコンサート	1,000	850	923	1,189
合計	1,298	1,161	1,200	1,473

- ・満足度調査（「よかった」と答えた人の割合） (%)

イベント名	H26 年度	H27 年度	H28 年度	H29 年度
クラシックコンサート	93.9	81.2	86.0	87.5
はじめて音楽会	92.2	92.3	93.8	89.7
ふれあいコンサート	94.0	92.5	95.8	95.9
平均	93.4	88.7	91.9	91.0

- ・来場者数、満足度とも求める基準を超えている。

今後の方策

- ・優れた芸術文化にふれあう機会を提供する事業として、継続して事業を実施する。
- ・多くの町民に機会を提供できるよう、情報発信方法や内容等の工夫・研究を行う。
- ・新海田公民館の開館時に文化協会が活動を開始できるよう、社会教育委員会議などの機会を捉えて議論し、計画的に準備を進める。

施策

青少年の健全育成

取組と成果

平成 29 年度は、青少年の健全育成を目指し、家庭や地域と連携を図りながら、次のような取組を行った。

- (1) (放課後子供教室) 地域のボランティアスタッフとともに、内容や開催場所について検討し、より多くの児童が参加しやすいプログラムを実施した。
- (2) (放課後子供教室-学びの広場) 元教員によるスタッフが、放課後に幅広い学年の児童を対象とした学習支援を行った。
- (3) (青少年育成事業) 交付した補助金を元に、青少年育成海田町民会議が、他機関と連携しながら、防災キャンプ等の青少年健全育成事業を実施した。

重点的に取り組んだ事業

事業名	内容	評価	頁
放課後子供教室事業	季節に応じた遊びや工作、食体験等のプログラムを月 3 回程度開催するとともに、福祉部局との連携を図りながら、小学生の学習支援を月 4 回程度開催する。	A	35
青少年育成事業	青少年育成海田町民会議への補助金交付を通じて、青少年の健全育成を図る。	A	36

評価

地域や家庭をはじめ、様々な人との関わりの中で、子供たちに様々な体験を提供することができた。今後も、より発展した活動を目指し、ニーズの把握と新たなプログラム（事業）の企画・実施に努める。

事業の目的

放課後や休日の子供たちの安全・安心な活動場所（居場所）を設け、さまざまなプログラムを提供することで豊かな人間性を育む。

事業内容

- ・季節に応じた遊びや工作，食体験等のプログラムを月3回程度開催する。
- ・福祉部局との連携を図りながら，小学生の学習支援教室を月4回程度開催する。

平成29年度目標

- ・放課後や休日の子供が健やかに活動できるよう，より充実したプログラムを提供する。
- ・学習支援教室「学びの広場」が安定して運営できるよう，関係部署とも連携を図る。

評価指標

- ・定期・特別プログラムでは，内容の更新を図りながら，安定した利用が得られたか。
- ・学習支援教室「学びの広場」について，関係部署と連携を図りつつ，安定した利用が得られたか。

事業評価

- ・地域のボランティアスタッフが積極的に関わり，プログラムの内容や開催場所についてリニューアルを図った結果，定期・特別プログラムについては，参加者数は減少したものの，1回の教室で平均39.7人の児童の参加があり，安定した利用がみられた。
- ・海田児童館で開催した学習支援教室「学びの広場」では，引き続き元教員によるスタッフが熱心に取り組み，幅広い学年の児童の利用があり，参加者も増加した。児童館との連携もスムーズに行われ，児童館の活動としても機能している。

○定期・特別プログラム（遊び・工作・レクリエーションなど）

	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度
開催回数（回）	43	42	41	39
参加児童数（人） （1回あたりの人数）	1,374 (32.0)	1,722 (41.0)	1,636 (39.9)	1,550 (39.7)

○学習支援教室「学びの広場」※H27より事業開始

	H27年度	H28年度	H29年度
開催回数（回）	45	47	46
参加児童数（人） （1回あたりの人数）	1,234 (27.4)	1,206 (25.7)	1,450 (31.5)

今後の方策

- ・今後も安定してプログラムを提供できるよう，スタッフの拡充を図っていく。
- ・定期・特別プログラムについては，時期やテーマの選択を適切に行い，内容の更新を図っていく。
- ・学習支援教室「学びの広場」については，福祉部局との連携を継続するとともに，小学校との情報共有も図っていく。

生涯学習課

事業名

評価

青少年育成事業

A

事業の目的
次世代を担う子供や若者の健全育成を推進し、豊かな人間性を持ち自ら考えることができる青少年を育てる。
事業内容
青少年育成海田町民会議へ補助金を交付し、充実した事業運営が行えるよう支援する。
平成29年度目標
補助金の交付を通じて、青少年健全育成活動団体を支援し、地域における青少年健全育成活動を推進する。
評価指標
青少年育成海田町民会議について、補助金を適切に活用し、充実した青少年の健全育成事業を行っているか。
事業評価
青少年育成海田町民会議は、全自治会長や学校、団体等が会員であり、あいさつ運動やのぼり旗の配布により、地域全体で啓発活動に継続して取り組んだ。新規事業として、海田公民館講座「未来のまちのおせっかいさん養成講座」、海田町生活安全課と連携しながら防災キャンプを実施するなど、青少年に直接働きかける事業を実施し、青少年の健全育成に貢献した。また、海田町社会教育委員会において、青少年の健全育成に取り組む団体を支援するという補助金の交付目的は概ね達成できているとの評価を得た。
今後の方策
<ul style="list-style-type: none">・青少年育成という趣旨に沿った事業を今後も展開できるよう、青少年育成海田町民会議への支援を行う。・生涯学習活動として実施している事業のほか、学校教育・福祉部局と連携・協働して、青少年健全育成事業に取り組む。

施策

スポーツのまち・海田づくり

取組と成果

平成 29 年度は、スポーツのまち・海田づくりを目指し、次のような取組を行った。

- (1) 各種大会等の開催により、住民が生涯にわたってさまざまなスポーツに親しんでいける環境づくりに取り組むとともに、関係団体へ補助金を交付・支援することでスポーツの普及を進めた。
- (2) 日本人初のオリンピック金メダリストである織田幹雄さんの偉業を継承し、その魅力を広く発信するとともに、関係団体への補助金交付を通じてスポーツの振興を図った。

重点的に取り組んだ事業

事業名	内容	評価	頁
スポーツ振興事業	住民が気軽に参加できるスポーツ大会等を実施するとともに、関係団体と協働で事業を実施し、スポーツの普及に取り組む。	B	38
織田幹雄顕彰事業	平成 28 年度に制作したツールを有効に活用して、織田幹雄さんの偉業を継承・その魅力を町内外に発信するとともに、織田幹雄国際陸上競技大会への補助金交付を通じてスポーツ振興を図る。	A	39

評価

スポーツのまち・海田づくりのため、住民が気軽に参加して楽しめる生涯スポーツ及び競技力向上を目指す競技スポーツの普及を関係団体とも連携して推進した。大会・イベント等の実施に加えて、平成 28 年度に制作したツールを用いて、織田幹雄さんの偉業・魅力を町内外に有効に発信してスポーツのまち・海田づくりに努めた。

今後とも、生涯スポーツと競技スポーツのバランスを保ちながら、住民が生涯にわたってさまざまなスポーツに親しむことのできる生涯スポーツの環境づくりを推進する。

事業名

評価

スポーツ振興事業

B

事業の目的

住民がさまざまなスポーツに親しむことができ、また、体力・競技力の向上も図れるような各種スポーツの普及に取り組む。

事業内容

- ・誰もが気軽に参加可能なスポーツ大会等を開催する。
- ・海田町体育協会、海田町スポーツ少年団及び織田幹雄スポーツ振興会に補助金を交付し、協働で事業を実施する。

平成29年度目標

誰もが気軽に参加できるスポーツ大会等を開催するとともに、補助金交付等による各補助団体の活動支援を通じて住民の体力・競技力向上を図る。

評価指標

- ・開催事業の参加者数が前年度以上。
- ・補助団体が補助金を適切に活用して事業運営を進めているか。

事業評価

- ・開催事業参加者数は減少した。(人)

事業名	開催日	人数		
		H28年度 (A)	H29年度 (B)	増減 (B)-(A)
プール開放事業	7/21(金)～8/18(金)	3,767	2,753	▲1,014
子供スポーツ交流会	7/30(日)	116	79	▲37
体育の日記念GG大会	10/9(月・祝)	387	354	▲33
駅伝大会	2/18(日)	898	859	▲39
クロスカントリー駅伝大会	3/3(土)	26	38	12

※1 GG グランドゴルフ

- ・3団体に対して補助金を交付した。(海田町体育協会 1,010,000円、海田町スポーツ少年団 450,000円、織田幹雄スポーツ振興会 1,000,000円)
- ・各団体は補助金を有効に活用して各種事業を実施しており、海田町社会教育委員会において、住民の体力・競技力向上及びスポーツ活動の推進に貢献しているとの評価を得た。

今後の方策

- ・より多くの住民が楽しく気軽に参加できるスポーツ大会等を開催するため、事業内容の変更を検討する。
- ・補助団体と連携し、住民のスポーツ活動の推進・機会拡充に努める。
- ・平成32年度の新海田公民館の開館にあわせて、より充実したスポーツ環境を構築するため、既存団体の統廃合を含め、新しい推進体制について具体的検討を進める。

事業名

評価

織田幹雄顕彰事業

A

事業の目的
日本人初のオリンピック金メダリストである織田幹雄さんの偉業・魅力を町内外に発信するとともに、補助金交付団体を通じて次世代のアスリート育成などスポーツ振興を図る。
事業内容
<ul style="list-style-type: none"> ・織田幹雄さんの偉業・魅力を町内外に発信する。 ・補助団体へ補助金を交付することで、団体の事業運営を支援する。
平成29年度目標
各種ツールを効果的に用いて織田幹雄さんの偉業・魅力を町内外に発信するとともに、補助団体への補助金交付を通じてスポーツ振興のための事業運営を支援する。
評価指標
<ul style="list-style-type: none"> ・各種ツールを用いて織田幹雄さんの偉業・魅力を町内外へ発信したか。 ・補助金交付団体が補助金を有効に活用して活動しているか。
事業評価
<ul style="list-style-type: none"> ・第51回織田幹雄記念国際陸上競技大会において、スタジアム設置のオーロラビジョンで動画を放映するとともに、コンコース内に設けた紹介コーナーでティーチャーズキットを展示した。 ・織田幹雄ポロシャツを制作して全職員（教職員を含む）に貸与、指定日に全職員が着用した。 ・動画及びティーチャーズキットを用いて出前講座を実施した。（計5団体）
今後の方策
<ul style="list-style-type: none"> ・各種ツールを効果的に利用して、引き続き、織田幹雄さんの偉業・魅力を広く発信する。 ・補助団体への補助金交付を通じてアスリート育成・スポーツ振興を推進するとともに、織田幹雄さんの偉業をより広域的に顕彰する。

Ⅲ 総括

学校教育課

海田町の学校教育の基本理念である『夢を持ち、夢を語ることのできる』児童生徒の育成」を目指して教育活動を進めてきた。

平成 29 年度は、引き続き「海田版『学びの変革』」を推進し、「課題発見・解決学習」の単元開発を行うとともに、実践事例等を町全体で共有して、授業改善を進めることができた。今後も、平成 32, 33 年度の新学習指導要領の全面実施に向けて、それぞれの年の位置づけを明確にし、業務を進めていく。

また、様々な課題を抱える児童生徒を支援するための環境整備を行い、相談や支援の拡充を図ることができた。

生涯学習課

『人がつながり、夢を育む』生涯学習の推進」を図ることを目標に、住民一人ひとりが様々なスポーツに親しみ、優れた芸術文化に触れる機会の提供に努めた。

平成 29 年度は、それぞれの事業の特性・課題等を認識した上で、事業や諸活動を継続し、概ね充実した内容となった。

(仮称)海田公民館及び(仮称)織田幹雄記念館の建設にかかる公民館整備事業に関しては、機能的で魅力のある施設とするための設計業務を進めることができた。平成 32 年度の開館に向けて引き続き取り組んでいく。

VI 評価委員の点検・評価

平成29年度海田町教育委員会点検・評価報告書案（平成29年度対象）について、平成30年8月21日に海田町役場別館加藤会館2階会議室においてヒアリングを実施しました。評価結果の根拠、評価の判断・解釈の適切性、今後の方策の不明な点や疑問点などについて質疑を行いました。

今回のヒアリングの中で、とくに次のことが話題となりました。

- 1 平成29年度は、学校教育の施策の柱の一つである海田版「学びの変革」が3年目の節目の年でした。「課題発見・解決学習」の単元開発など、一定の成果を上げることができました。今後、「学びの変革」の推進をマネジメントの観点からも捉えて、さらに発展させることが期待されます。また生涯学習では、主屋活動室の効果的な活用により、見学内容の幅が広がり、見学者数が大きく増加した点が評価できます。
- 2 評価の在り方について、「このようなことにこれだけ取り組んだ」という取組指標（アウトプット）だけでなく、「取り組んだ結果、このような成果が得られた」という成果指標（アウトカム）を示すことが大事です。また、単年度だけではなく、前後の複数年度の流れを踏まえて、当該年度の評価結果の意味を説明していただくと、さらに理解しやすくなります。

ヒアリングを踏まえて評価結果の変更や補足などをおこなった報告書案の修正版が9月11日付けで外部評価員のもとに送付され、その修正箇所について確認しました。

その結果、平成30年度海田町教育委員会点検・評価（平成29年度対象）は適切であると判断します。

外部評価員

広島大学大学院教育学研究科

教授 曾余田 浩史